

Learn more about the SBIR Phase 3 projects!

世界の未来を変えるテクノロジーはここに！
ご興味を持っていただいた皆様、いつでもコンタクトをお待ちしています！

SBIR実証プロジェクト総覧の作成・公表



SBIRフェーズ3採択先が取り組む大規模技術実証プロジェクトについてまとめた「SBIR実証プロジェクト総覧」を公開しています。

実証プロジェクトごとに 下記情報を掲載

- ▶ 大規模技術実証の概要
- ▶ 社会実装に向けての開発スケジュール・目標
- ▶ 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）
- ▶ 会社概要・連絡先



SBIR特設サイトにて公表

<https://sbir.csti-startup-policy.go.jp/phase3fund>

SBIR Phase 3 Projects

SBIRフェーズ3事業

Create a Sustainable
Future with Japanese
Startup Technologies!



Small/Startup
Business
Innovation
Research

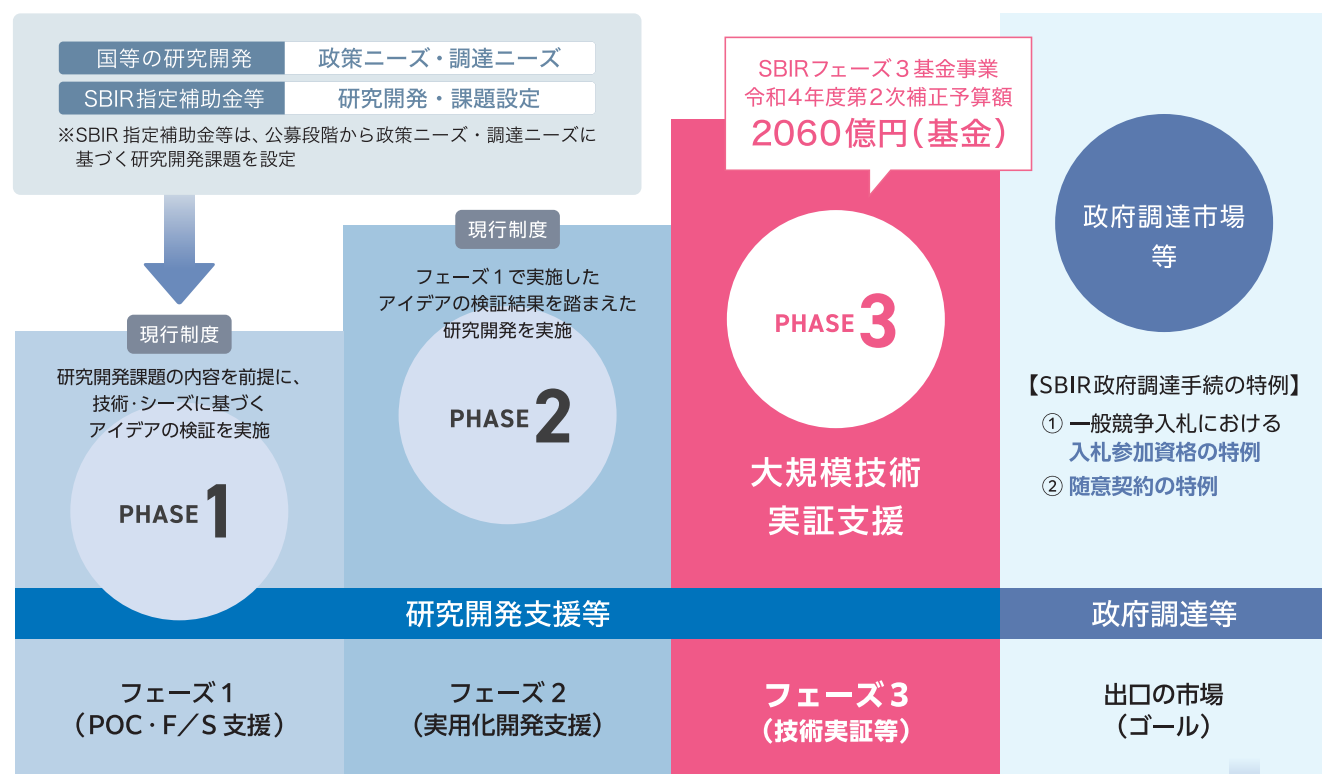
発行元：内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

Small/Startup Business Innovation Research Program

SBIR 制度とは？

SBIR制度 (Small/Startup Business Innovation Research) はスタートアップ等による研究開発を促進し、その成果を円滑に社会実装し、我が国のイノベーション創出を促進するための制度です。同時に、革新的な技術を社会実装していくことで我が国が直面する様々な社会課題を解決に導くことも目的の1つです。かつては、公共調達を見据えた中小企業の技術開発支援でしたが、現在ではスタートアップに対する研究開発支援に移行しました。同制度に基づく「指定補助金等」の対象や規模も抜本的に拡充しています。

ビジネスアイデアの実現可能性調査 (フィージビリティスタディ (F/S)) 段階 (フェーズ1)、実用化に向けた研究開発段階 (フェーズ2) の支援の拡充に加え、新たに先端技術分野における大規模技術開発・実証段階 (フェーズ3) も支援対象に追加しています。



SBIRにおける研究開発成果の政府調達の促進について

- 01 入札参加機会の拡大【入札参加資格の特例】**
入札参加資格等級、過去の納入実績の有無にかかわらず、基本的に全ての入札への参加が可能
- 02 研究開発成果の調達手法【随意契約の特例】**
研究開発成果について、研究開発期間の終了時に実施する終了時審査結果の公表時に同等の技術がないことが確認されれば、随意契約による研究開発成果に係る調達や技術調査事業（調達に向けての実証試験）等が可能



詳細はスタートアップからの公共調達等の推進に向けた施策ガイドブックを参照

スタートアップが有する先端技術の社会実装の推進に貢献します

主要な技術実証プロジェクトの例

01 民間ロケットの開発・実証

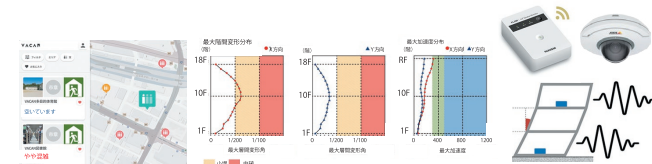
国際競争力を持ったロケットの開発・飛行実証を行うスタートアップ企業を支援する。

	①サブオービタル宇宙旅行	②オービタル宇宙旅行	③P2P（高速2地点間輸送）旅客輸送
A 垂直離陸 / 水平着陸 ロケットエンジンのみ	ケースA①1段式	ケースA②2段式	ケースA③1段式
B 水平離陸 / 水平着陸 空気吸込エンジン等	ケースB①1段式	ケースB②2段式	ケースB③1段式

実用衛星打上げシステム技術

02 防災技術

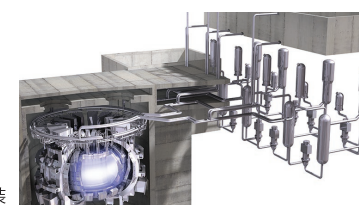
デジタル技術を用いた避難所運営業務の自動化・効率化を実現する各ソリューションを組み合わせ、自治体の業務負荷の軽減と情報基盤の統一化、住民向けのリアルタイムでの情報発信等の実証を目指す。



センシング技術、統合・解析技術、UI/UX等の開発、自治体での実証

03 核融合技術群の実証

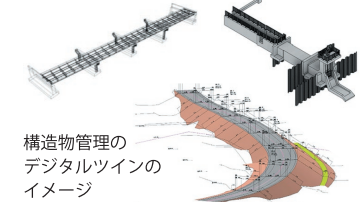
国内外の核融合関連装置への実装を目指す、核融合発電の実現に必要な要素技術群の実証を行うスタートアップ企業を支援する。



核融合関連装置への実装

04 デジタルツイン

構造物の三次元データを取得し状態把握を行うとともに、それらデータを活用してデジタルツインを構築し、効率的な維持管理の実現に向けて検討を行う。



構造物管理のデジタルツインのイメージ

05 スペースデブリ低減に必要な技術開発・実証

軌道上でスペースデブリとなった衛星等の除去を行うために不可欠となる革新技術・システム開発・実証や、小型衛星等が運用終了後に速やかに軌道離脱することを促進するための技術・コンポーネント開発・実証を行い、これらを利用したサービスの事業化の世界展開を目指すスタートアップ企業を支援する。



株式会社アストロスケール

06 空飛ぶクルマ

機体開発メーカーである、株式会社SkyDrive、テトラ・アビエーション株式会社の2者を採択。株式会社 SkyDrive は、2025 年大阪・関西万博での二地点間飛行に向けたマルチコプタータイプの機体開発や、機体の量産に必要な型式証明取得のための試験等を実施する。テトラ・アビエーション株式会社は、固定翼を備えたリフト・クルーズタイプの空飛ぶクルマを開発し、米国の制度を活用した早期の認証取得を目指して、飛行試験等を行う。



株式会社 SkyDrive



テトラ・アビエーション株式会社

07 自動運転（公共交通）

スタートアップ等からなるコンソーシアムを形成し、SIPの成果や各社の強みを活かして自動運転技術の開発を進めるとともに、地域公共交通における自動運転実証等を開発にフィードバックすることで自動運転技術の開発を加速化し、自動運転移動サービスの普及実現を推進する。



自動運転プログラム



大型車の制御

08 SAR衛星活用

今後のSAR衛星の新規打ち上げ計画、利用技術の進捗を見据え、必要に応じてLP等の地上のデータと組み合わせることを行いつつ、直轄国道や直轄河川・砂防での現場等における実証を通じ、それらの技術の適用可能性を検証し、現場のニーズに対応したSAR衛星画像解析の活用を推進する。



©Synspec Inc All Right Reserved
成田空港周辺の圏央道

09 スマート農林水産業・食品分野の技術開発実証

食料・農林水産分野における作業の自動化や、データを活用した精密な生産システムの構築による生産性の向上を図るための技術実証を行う。
＜開発項目（例）＞園芸作物の収穫・農業散布ロボット、総菜工場の製造工程の全自動システム、豚舎の飼養管理全体のデータ管理、森林伐採作業の自動化、AIによる漁船の操業監視システムの開発・実証等



トマト収穫ロボットのハウス実証



豚舎のDX化

10 AIホスピタル

＜医療現場のニーズに即した医療AI技術の開発・実証＞
スタートアップ企業と医療機関が協働して、医療現場のニーズに即した医療AI技術の開発を加速し、AIホスピタルの社会実装を推進する。
＜開発項目（例）＞EHR連携 AI 電子問診票の実装、救急医療業務改善ツールの開発と社会実装、認知機能・フレイル評価のためのAIシステム・デバイスの開発等

検査手順



アイトラッキング式 認知機能評価法

今後、政府として全てのプロジェクトについて
技術実証成果の社会実装に向けた
具体策（政府調達、規制緩和、標準化ほか）を示したロードマップ
を作成し、技術実証期間中に公表を予定